

Q： 福島第一原発事故は現在収束に向け最大限の努力をしていますが、収束した後、東電としてはどのように処理する計画ですか？

A： 3月30日、東電の今後の方針を発表したが、事故を起した1号機～4号機の原子炉は廃炉と、東電取締役会が決定したと、勝俣会長が発表した。

事故後19日も経ってからののは、その間なんとか再建できないか、1基3000億円もするコスト感覚からすれば廃炉するには躊躇して当然かも知れない。

しかし、そのコスト感覚こそが事故の原因になっていることも考慮すべきだ。

廃炉の要因として挙げたのは、核燃料ペレットの溶解や水素爆発により設備に著しい損傷を受けたことを廃炉の理由だとした。

計画中の7号機8号機の建設を中止する。

点検中だった5号機、6号機の原子炉は冷温停止状態にあり、除熱機能は維持されていたので損傷は受けていない、としているが、東電としては、まだ詳細な調査をしていないので、当面は安全な冷温停止状態の維持に全力を尽くす。

事故の1～4号機の原子炉等の冷却や放射性物質の飛散防止等安全性確保に要する費用として、4262億円。

第一原発の5号機、6号機、第二原発の原子炉の安全な冷温停止状態維持のための費用として、2118億円。

第一電発1号機～4号機の廃炉に関する費用、2070億円。

7号機、8号機の増設計画中止に伴う費用、393億円。

災害特別損失の現状での見積額を計1兆0175億円。

福島第一原発廃炉までの工程表

- * 使用済み燃料プールの燃料取り出し・・・5年後
- * 原子炉の使用済み核燃料取り出し・・・・・・・・10年後
- * 建屋の解体まではの見通しは観測として・・・・数十年後
- * 今後の技術力強化に見通しより早くなる可能性はある。
- * 原子炉冷温停止後、警戒区域縮小・解除を慎重に検討する。(年末か1月まで)
- * 技術開発、原子炉内の放射線量を下げたための、遠隔除染技術の開発(ロボット) 取り出した燃料、放射性物質等の廃棄物の処分技術、または封じ込め技術。
- * 廃炉その他 放射性物質に汚染されている物体の再処理・封じ込め、埋め立て等の原発保持している国を含めて総合的な研究が必要で、政府が指導する必要がある。

今後この分野では世界中の原発保有国が再処理、保管、廃炉その他困難な問題に直面することは明らかなので、この機会にとことん研究を重ね、出来れば処理能力で世界をリードする原発処理先進国になってほしい。